

# 命の大切さを学ばせる体験活動推進校 古渡小学校

## 1 取組の概要及び成果等

### (1) 取組の概要

生活科，総合的な学習の時間と道徳，特別活動との関連を図り，豊かな体験活動を推進するための年間活動計画を学年ごとに作成し，活動に取り組んだ。

#### 実践内容

##### <自然体験活動>

- ・学校菜園での勤労生産活動
- ・ほたるの飼育や幼虫の放流による「ほたるの里」づくり
- ・学校林「ふっとの森」づくり

##### <交流活動>

- ・収穫物の調理，試食を通じた親子ふれあい活動
- ・祖父母とのふれあい活動
- ・老人養護施設とのふれあい活動

##### <講演会>

- ・自然環境に関する講演会
- ・戦争体験に関する講演会

### (2) 特に工夫や配慮をした事項（ねらいや位置付けなどを含めた計画，活動の場や内容，指導方法や指導者，事前・事後指導，評価等）

全体計画は，本校の課題をもとに，この研究における目指す児童像を設定し，作成した。また，全体計画をもとにした各学年の年間指導計画を作成し，全職員が共通理解を図り，活動に取り組めるようにした。

「命の調和」としての「自然と人との共生」をねらいとして，命の大切さを感じ取ることができる体験活動の研究を進めた。

「命の大切さ」がより実感できるよう，学校林や学校菜園，隣接する公園等での自然体験活動に取り組んだり，外部講師を招き実体験に基づく講話を聴いたりする機会を多くした。

自然体験や講演会では，地域の方々や外部講師を依頼したが，地域の方々にお世話になったことで，学校での取組みが広く地域の方々にも知っていただけるようになり，活動を進める上でとても有意義であった。

### (3) 成果等

（児童生徒の変容（データや具体例），教員や保護者，受入先の感想等。一定期間まとまった体験活動を実施することによる成果は必ず記載すること。）

全体計画や学年ごとの指導計画を作成し活用したことで，活動のねらいや内容が，指導者ばかりでなく，職員全体で共有することができた。また，事前や事後指導にも生かすことができた。

教科等の関連を明確にし，命を大切にす態度や心情の育成を図ってきたことで，児童は，自分を取り巻く自然や人々に対する感謝の気持ちを育み，それらを大切にしようとする態度が，日常生活の中でも見られるようになった。

ほたるの淡い光を観賞し，自然の神秘に感動したり，自分たちで育てた作物をじっくり味わったりする活動を通して，小さな命や自分の体を大切にしようという心情や態度が育ってきた。

## 2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

### (1) 学校の推進体制と学校支援委員会の活動の概要

校長を中心に、教頭、教務、各校務担当による「豊かな体験活動推進委員会」を設置し、全職員で研究を深めた。

年間3回の学校支援委員会を開催し、活動の計画から実践に至るまで、実践の見通しにつながる助言を頂いた。

校内推進委員会が組織されたのは、5月末であったが、全体計画の作成から、学年ごとの年間指導計画の作成にかけて、校長以下全職員が本研究に向け、意欲的に取り組むことができた。そのため、1学期のうちに、活動を開始することができた。

今年度は、3回の学校支援委員会を開催することができた。委員の方々にはそれぞれの立場から大変参考になる意見や助言を頂き、それを活動に生かすことができた。

### 3 今後の課題と改善点

「人と自然との共生」をテーマに、自然体験を中心に実践してきたが、人の命の大切さにいかに結び付けていくか、学校支援委員会との連携を深め研究を進めていく。

一つ一つの活動のねらいを明確にし、子どもたちの意識を高めてから体験に取り組ませることで、「命の大切さ」をより実感させていく。

体験終了後、感想を作文に書かせたり、振り返りカードを工夫したりすることで、命を大切にする心情を定着させる。